

## 『大阪鶴見緑地 パートナードッグタウン テーマ「ありがとうがこだまする場の創造：柳原英次氏」』

「大阪から参りました柳原英次と申します。一般社団法人パートナードッグタウン協会の理事長をさせていただいております。本業は株式会社ケーピーエスというペット用品、特に健康に力を入れているメーカーで代表取締役をしております。20歳のころからペットショップでアルバイトをしております、そのままペットショップに就職をして、15年くらいペットショップの店長をしてきました。そこからメーカー業の方へ入って行って独立し、現在に至ります。ペット業界38年、ずっと頑張っております。」

### パートナードッグタウンの紹介

「長年ペット業界で仕事を続けてきたのですが、せっかく続けているのだから何かを残したいと考えるようになります。そこでパートナードッグタウンをつくるという夢を抱きました。」

大阪市内には鶴見緑地という、東京ドーム26個分ほどの大きさの公園があるそうです。

「1990年に行われた花と緑の博覧会が開催された場所になります。私たちの会社もその公園のすぐそばなのですが、公園駅前から徒歩3分のところの場所に240坪の『パートナードッグタウン』という施設をつくりました。20年契約で土地を借り、2014年の12月にオープンいたしました。」

その広い土地には、新しい家族と保護犬をマッチングするスペースをメインとして作られ、活動を支援する方の専用ドッグランがS、M、Lと3つあります。マッチングスペースは屋内と屋外を行き来できるようになっていて、そこで保護犬を迎えたいという方へインタビューしながらマッチングを行っていくそうです。

「パートナードッグタウンでは4つの育み、マナーを育む、えがおを育む、こころを育む、いのちを育むというテーマをもって活動しています。」

パートナードッグタウンは大阪市で初めて公共公園の中にドッグランをつくることのできた初めての事例です。

「公共公園の中にマッチングができるスペースを常設で、しかも民間の力だけでつくったというのは、おそらく日本でも初めてだったのではないかと思います。」

公的な公園の中に犬をずっと置いておくことはできないため、パートナードッグタウンでは営業日に特定の保護団体から犬を6頭連れてきて、マッチングを行っています。

「さらに、他の保護団体の方へもパートナードッグタウンを使っていただけるようにしております。今週の日曜日にも合同ふれあい譲渡会を開く予定なのですが、このようなことを行っているところ自体も日本ではあまりないのではないかと思います。」

パートナードッグタウンでは譲渡活動と並行して啓蒙活動も精力的に行っているそうです。

「ドッグランの会員になっていただくときには“命の衝動買いをしない”、“安易な繁殖をしない”、“迷子にしない”“ワクチンの接種の重要性”といったことをきちんとお話して理解していただくようにしています。」

## 新しい家族とのマッチング事例、2件

オープンしてからの4年間、パートナードッグタウンには約40,000名の方、そして30,000頭の犬たちが訪れています。

「新しいご家族と保護犬のマッチングは96頭することができました。4年間で96頭という数字は少ないと感じられるかもしれませんが、私自身もうすこしできるかと思っただけなのですが、実際のところ、なかなか数字が上がってきません。」

それは、譲渡をするにあたりさまざまな事情があるためだといいます。

「私たちの施設には、中型犬サイズで健康問題を抱えているなど、家族に迎えるにあたりハードルの高い子たちが多く来ます。たとえば13歳のベッカムちゃんというチワワの保護犬がいたのですが、白内障がかなり進んでいて立つことすら厳しいような状態でした。健康状態ばかりでなく、目が見えないために精神的にも非常に不安定な子でした。しかし、そのような現状をすべて受け入れてくれるという方が新しい飼い主さんになってくださったのです。ベッカムちゃんは今では16歳くらいになっていますが、つい先日も一緒に遊びにいらしてくださいました。表情がとても和らいでいて、丁寧にケアしてくださっているのを見て手に取るように分かり、泣きそうになるくらい感動いたしました。」

ベッカムちゃんの表情が和らいでいたように、健康状態がよくなるだけでなく、性格もどんどん穏やかになっているとの報告も数多く受けているそうです。

「シェルティのコリンちゃんは11歳で譲渡することができたのですが、譲渡までに1年間近くかかりました。なぜなら高齢で足が悪かったためです。新しい飼い主さんは、以前飼っていたシェルティを亡くしたばかりのときにパートナードッグタウンに立ち寄ってくださった方です。そのときに出会ったコリンちゃんが、亡くなった愛犬とそっくりだったそうで、ぜひともコリンちゃんと一緒に暮らしたいと思ったそうです。マッチングが決まると、悲しみに打ちひしがれていたご家族の方々もみなさん笑顔になられ、そしてコリンちゃん自身もご家族が決まると表情が変わってくるのがわかりました。『ここにいたときのあの子がこんな表情になるの!?!』と、飼い主さんが決まると犬たちの表情がすごく変わっていく様子をこの活動を通じて実感しています。それはとても嬉しいことです。」

## 私が考える、3つの問題

保護犬もご家族も皆が笑顔になれる場となっていることがとても嬉しい、そう話す柳原さん。しかし、現状にはまだ問題もあるといいます。

「問題は大きく3つあると考えています。一つは情報を発信しやすい時代になっているものの、まだまだ保護犬や保護猫の情報がすみずみまで届けきれていないということです。二つ目に、保護犬と出会う場所や機会が少ないこと、そして三つ目は、先ほども申し上げましたが保護犬はさまざまな問題を抱えている子が多いので、新たに飼い主さんになる方々にとって犬の心身の健康に関する不安があるということです。」

これらの問題に対し3つの未来への課題を掲げられました。

「保護犬や保護猫の情報をきちんと発信して少しでも多くの方々へ届けられる仕組みをつくり、そして彼らと出

会える場所や機会をもっともっと増やしていきたいと思っています。そして犬たちの心と体の健康への安心度を高め、新しいご家族が安心して迎えられられるための仕組みづくりが必要です。これらの課題を少しずつクリアしていけるよう努力していきたいです。」

### パートナードッグタウンの強み

皆が笑顔になれる場となっているパートナードッグタウンには、どのような強みがあるのでしょうか。

「まず、里帰りできる場所があるということです。新しい家族に迎えられた子たちが、飼い主さんと一緒にたびたび遊びにいらしてください。交通の便もとてもよく、駅前3分、2,500台分の駐車場を完備しています。また、大阪市の公共公園の中にありますので皆さんとても協力的で、ルールをきちんと守ってくださいます。大阪市というパワーを感じるところでもありますね。そして皆さんの『ありがとう！』が飛び交う明るい場となっているところが私たちの強みだと思っています。」

柳原さんはペットの健康に役立つペット用品メーカーという本業をされていることから、スタッフが犬たちの健康についてアドバイスをしていけるような環境をつくっていかうと取り組み始めたところでもあるそうです。

「オープンして4年経ちましたが、大阪の方でパートナードッグタウンのことをご存知なのはまだ5%くらいだと思います。鶴見緑地そのものは知っていても、行ったことがない人が90%くらいかと思われます。花博には行ったけれども、それ以降は行っていないという人がとにかくとても多いのです。価値のある活動をしていると思っていますので、もっと多くの方に知っていただきたいというのが私の願いです。」

パートナードッグタウンを周知するためのイベントとして、今年の4月27日、28日には『パートナードッグカーニバル in 鶴見緑地 2019』が開催されます（入場料無料）。こちらは東京で開催されている『わんわんカーニバル』の大阪版になるそうです。

「折衝に1年半かかりましたが、ついに開催にこぎつけることができました。大阪市、大阪市獣医師会、大阪府獣医師会の皆さんに後援していただき、ゴールデンウィークの初日、二日目という素晴らしい日程を取っていただくことができました。カーニバルという楽しい感じのする名前がついていますが、大阪市では2025年までに理由なき犬猫の殺処分ゼロを掲げているという状況でもありますので、啓蒙活動を通じてそのようなところでも力を合わせてやっていければと考えています。ただし、殺処分をなくしていくことで、逆に保護犬の頭数は増えてきているという現状があるのも事実です。もっともっとマッチングできる場所が増えていき、犬も人も皆が笑顔になっていくことを心から願っております。」